「第 13 回臨時・パート・非常勤労働者のつどい」
闘ってこそ明日がひらかれる

「第 13 回臨時・パート・非常勤労働者のつどい」が 11 月９日、寝屋川市民会館でひらかれ、４００人を超える公務、民間の様々な職種の非正規労働者が集まりました。

つどいの実行委員長の田中耕三さん（大阪労連北河内地協議長）は「アメリカではアフリカ系黒人のオバマ氏が新しい大統領に。背景に若者や生活者の大きな支持と世論があった。」学習タイムでは、竹信三恵子さん（朝日新聞編集委員）が「人間らしく安心して働きたい」のテーマで講演し「戦後、正社員の男性中心に家族を養っていく生活パターンが確立した。女性は家庭中心で、仕事をしても非正規が多数派。男女の性差別が出発点になっている。日本が今のように格差社会になったのは非正規労働者が増大したこと。同時に生活保護などの生活保障ネットワークなど福祉制度が切りさげられてきたことが大きい。これからの非正規の運動のためにはメディアをもっと活用すること、マスコミの投書蘭を活用して主張していくことも必要。また、自分を元気にするために、おかしいことはおかしいと言いガマンせず荷を降ろして心身を楽にする生き方をすべき」と強調しました。

職場からの「聞いて聞いてトーク」では、「３人からスタートした部会も大きく広がった。仲間とのつながり交流を大事にしている」（福祉保育労阪南支部非常勤部会）、「非常勤の教職員は全国に 10 万人、大阪で１万人いるが、ほとんどが無権利状態。少しでも改善していきたい（大教組臨時教職員部）、「職場にはさまざまな非正規労働者がいるが、パートが常勤嘱託に、常勤嘱託を正規職員にという成果も起こっている」（医労連大阪病院支部）、「非正規職員の最低賃金の引き上げにとりくんでいる」（パルコープ非常勤部会）「保育所の民営化で非正規保育士の雇用いとりくんでいる」（大阪自治労連・大阪公務公共一般労組）などつぎつぎと声があがりました。

また、現在、闘争中の労組からは「橋下知事の予算切り捨てによる解雇方針に怒りと不安がいっぱい。メンタルの疾患も増えている」（手府高臨時職員部会）、「枚方非常勤裁判で 10 月 31 日に判決があった。常勤的職員という存在を認めた点は評価、条例主義のもとでの違法という判断には納得できない」（枚方非常勤裁判をたたかう会）、「10 月 14 日い大阪府労働員会はタイガー魔法瓶の不当労働行為を認定。会社はいっときも早く団体交渉に応じよと訴えている」（北河内合同労組）などが報告されました。